

健康について

- 熱があったり、具合が悪いときは、お子さんにとって集団での保育が負担になります。朝、健康状態を必ず確かめてください。(乳児は朝、必ず検温してください)
- 「外遊びを控えてほしい」という要望は、職員の体制上、室内にお子さんだけ残しておくことはできないため、お受けできません。
- 「何℃で一度連絡がほしい」など、園からの連絡に対して要望がありましたら、担任までお知らせください。
- 熱が高い場合や、右のような症状が見られる場合、お迎えをお願いすることがあります。

- ・38.5℃の発熱がある。
- ・機嫌が悪く、泣いてばかりいる。
- ・食欲がなく、水分もとれない。
- ・元気がなく、だるそうにしている。
- ・眠りが浅く、すぐに目覚めてぐずる。
- ・顔色が悪い。
- ・その他、普段の状態に比べ、異常が認められるとき。

予防接種について

子どもは病気にかかりやすく、かかると重くなる事があります。それを防ぐために免疫を作り、感染症から身を守る事が大切です。予防接種を受けて免疫を持つことは、流行を防ぐことにもなります。

	実施月	ワクチン名	接種回数	対象年齢
個別接種	平成24年 4月1日	BCG	1回	
		四種混合(ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオ)	1期初回…21日から56日の感覚で3回	生後6ヶ月未満
	平成25年 3月31日	二種混合(ジフテリア・破傷風)	1期追加…6ヶ月以上あけて1回 ※1年から1年半が望ましい	生後3ヶ月～7歳6ヶ月未満
		麻しん 風しん混合 麻しん(単) 風しん(単) ※基本的には混合	1期…1回	
			2期…1回	平成19年4月2日～平成20年4月1日生
			3期…1回 ※1	平成12年4月2日～平成13年4月1日生
			4期…1回 ※1	平成7年4月2日～平成8年4月1日生
		日本脳炎 ※2	1期初回…6日から28日の間隔で2回	満3歳～7歳6ヶ月未満
			1期追加…おおむね1年して1回	
			2期…1回	満9歳～13歳未満
ヒブ(Hib) ※3 (細菌性髄膜炎)	生後2ヶ月～7ヶ月…4回 生後7ヶ月～1歳…3回 満1歳～5歳児未満…1回	生後2ヶ月～5歳未満		
小児用肺炎球菌 ※4 (細菌性髄膜炎)	生後2ヶ月～7ヶ月…4回 生後7ヶ月～1歳未満…3回 満1歳～2歳未満…1回 満2歳～9歳…1回	生後2ヶ月～9歳未満		

※1 予防接種法の1部改正により麻しんワクチンを1回しか受けていない世代に対して補足的接種として2回目の接種の機会を設けています。

※2 2010年8月27日より日本脳炎の乾燥細胞培養ワクチンが2期に使用できるようになりました。接種する日において、満9歳から13歳未満の方が接種できます。また、日本脳炎の1期接種が完了していないかたに日本脳炎1期接種が定期接種として、無料で受けていただけるようになりました。(対象外：接種する日に9歳になっていない方や13歳を超えている方)

※3 2008年12月より使用できるようになりました。生後2ヶ月以上で5歳未満のお子さんはすぐ受けるようにしてください。ワクチンの接種回数は年齢により異なります。生後2ヶ月から7ヶ月未満は合計4回です。7ヶ月から1歳未満は3回、1歳から4歳までは1回です。DPTワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの同時接種も可能です。

※4 2010年2月より使用できるようになりました。生後2ヶ月以上で9歳以下、特に5歳児未満のお子さんはすぐに受けるようにしてください。ワクチンの接種回数は年齢により異なります。生後2ヶ月から6ヶ月までは合計4回です。7ヶ月から11ヶ月までは3回、1歳は2回、2歳から9歳までは1回です。DPTワクチン、ヒブワクチンの同時接種も可能です。

伝染病について

- 当園で流行している病気につきましては、掲示板やワクポンにてお知らせします。
- 伝染病の疑いがある場合は医師の診断を受けてください。登園の際には治癒証明書が必要となります。

	疾病名	治癒の目安（保護者用）	
治癒証明を要する疾病	・インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで	
	・百日咳	特有の咳が消失するまで	
	・はしか（麻疹）	解熱後3日を経過するまで	
	・ウイルス性肝炎	主要症状が消退し、肝機能が正常化したとき	
	・おたふく風邪（流行性耳下腺炎）	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで	
	・三日はしか（風疹）	発疹が消失するまで	
	・水ぼうそう	すべての発疹が痂皮化（かさぶた）するまで	
	・流行性角結膜炎	治癒するまで	
	・プール熱（咽頭結膜熱）	主要症状が消退後2日を経過するまで	
	・結核	主症状が殆ど消失し、医師が登園しても差し支えないと認めたとき	
	・腸管出血性大腸菌感染症		
	・急性出血性結膜炎		
	・髄膜炎		
	・帯状疱疹		
	・アデノウイルスによる疾病		
	・溶連菌感染症		
	・流行性嘔吐下痢症		
・感染性胃腸炎（ノロ・ロタ・アデノ）			
・マイコプラズマ肺炎			
・RSウイルス	主症状が殆ど消失し、医師が登園を認めたとき		
・ヘルパンギーナ			
治癒証明不要の疾病		・ヘルバス性歯肉口内炎	主症状が殆ど消失し、医師が登園を認めたとき
		・手足口病	
		・りんご病（伝染性紅斑）	医師が登園しても差し支えないと認めたとき
		・突発性発疹	
	・とびひ（伝染膿痂疹、皮膚化膿症）	他人への感染の恐れがないと医師が認めたとき	
	・水いぼ（伝染性軟属腫）		